

# プログラム

10:00~10:05 所長挨拶 化学研究所長 時任 宣博

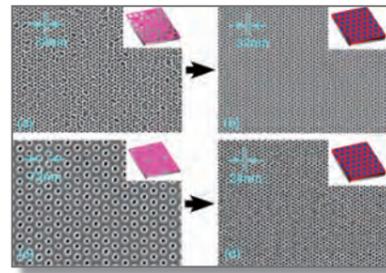


10:05~10:40

## 自己組織化により作り出される高性能高分子材料

教授 竹中 幹人

自己組織化とは、物質が自発的に組織や秩序構造を形成する現象です。自然界においては、雪の幾何学的な結晶構造や蝶の羽の美しい模様などが自己組織化により形成されています。近年、この自己組織化の制御によって従来の限界を超える材料が多く開発されています。本講演では、高分子材料において自己組織化により作り出される高機能材料について紹介いたします。



10:40~11:15

## 敵か?味方か?人と関わる微生物

教授 栗原 達夫

「微生物」と聞くと食品を腐らせる腐敗菌や病気を起こす病原菌を思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし、人に悪さをする微生物はほんのわずかです。多くの微生物は私たちの健康な暮らしや豊かな地球環境の形成に欠かせない大切な役割を担っています。私たちの研究室では、さまざまな環境から新しい微生物を見つけ出し、その生命活動を支える仕組みを調べるとともに、応用開発に取り組んでいます。その一端を紹介し、微生物の魅力を知っていただきたいと思います。

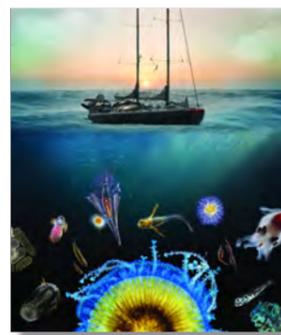


11:15~11:50

## タラ号海洋探査とは何か? -地球規模でみるプランクトンの世界

教授 緒方 博之

海洋には無数のプランクトンがいます。私たちが美味しいお魚を食べられるのも、気持ちよく息ができるのもプランクトンのお陰。地球温暖化などの環境問題が議論されていますが、私たちは、良い意味でも、悪い意味でもプランクトンと地球環境との関係を知ることが大事だと考えています。そんなことを調べるのが国際プロジェクトのタラ号海洋探査です。講演ではタラ号海洋探査が明らかにしたプランクトンと地球環境との関わりについてご紹介します。



© G. Bounaud/C. Sardet/Soixanteseize/Tara Expeditions

京都大学化学研究所

公開講演会

2017年10月29日(日)

10:00~11:50

参加費無料

事前申込不要

会場 宇治おうばくプラザ1階 きはだホール  
(京都大学宇治キャンパス内)

定員 300名